

災害に備えて

地震や突発的な災害は予測が難しく、風水害は予測可能といえども被害の規模までを予測することは困難です。また、家族がそろった状態で被害がおこるとは限りません。いざというときに素早く安全に行動できるかは、日頃の備えによるところが大きいと考えられます。

家族での防災会議

日頃から家族で災害時の行動や役割分担、避難場所の確認などを決めておけば、いざという時にあわてることなく冷静な判断をすることに役立ちます。



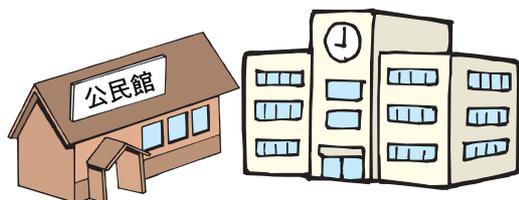
役割分担を決めておこう

持ち出し品を運んだり、小さい子どもやお年寄りの保護など、だれが何をどうするのか考えておきましょう。



家の内外の危険箇所を点検しておこう

トタンの取り付け具合やプロパンガスの設置状況、雨樋のつまりや雨戸のガタツキなど、普段から注意しておきましょう。



非常時の連絡方法や避難場所を確認しておこう

「災害時の避難場所一覧」を参考にしてください。

非常持ち出し品

災害から身を守るためには、日頃からの対策・準備が必要です。3日分を目安にリュックサックなどにまとめて用意しておきましょう。

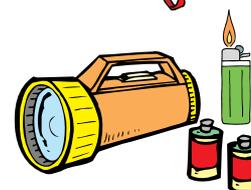
また、リストを作って数量や日付を記入し、食料品は消費期限などを確認してとりかえましょう。

携帯ラジオ(FM付き)
予備電池



照明器具

懐中電灯(できれば一人に1個)、
予備電池、ろうそく、ライター
など



非常食料品

水筒・ポリ容器などを用意しておく。
一人1日3リットルが目安
缶詰、乾パン、レトルト食品など
赤ちゃんのいる家庭はミルク



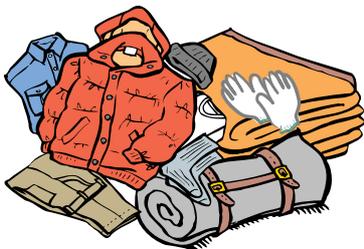
救急・衛生用品

消毒薬、傷薬、その他の薬類、
ばんそうこう、包帯、オムツ、
生理用品、ティッシュペーパー、
石鹸など



衣類

下着類、セーター、ジャンパー、
タオル、軍手、雨具など



その他道具

缶切り、栓抜き、ナイフ、
割り箸、紙製食器、
ビニール袋、ロープ、
筆記用具など



防災訓練

いざと言うときの知識は修得しているけれども、
実際に災害が発生した時には、パニック状態に陥り、
防災知識も十分に発揮できないことがあります。地域
で実施される消火訓練や救出救護訓練などに参加し、
技能を身に付けておくことも大切です。



コミュニティの力

地域での救援活動によってお互いを助け合いましょう。

兵庫県南部地震では、消防車や救急車が到着するまでの間、地域の人たちが
お互いに協力して初期活動を行ったり、建物の下敷きになった人を救出するなど、
身近なコミュニティが被害を最小限に食い止めた事例があります。

また、自治会等で構成している自主防災組織も大いに活躍しました。

篠山市においても、いざというときに備えて、日頃から地域コミュニティを活発に
しておくことが大切です。自治会や校区単位での自主防災組織で防災訓練等を通じ、
災害時の初動体制を築いておくことも肝要です。

こうした市民一人ひとりの防災意識の向上と地域コミュニティの輪が、
結果的には、自分たちや地域を守ることに繋がります。

日頃の備え（家庭・地域）